

やさしい聖書の学び

《求道者用テキスト》

日本イエス・キリスト教団

教会名「

氏 名（

《個人伝道全般》

はじめに	1
第1課 「神」	1
第2課 「人間」	4
第3課 「罪」	6
第4課 「十字架」	8
第5課 「救いの祈り」(罪のおわびの祈り)	11
第6課 「救い」(その1 救いとは)	15
第7課 「救い」(その2 信仰の成長)	18
第8課 「救い」(その3 神の子)	21

「これの使用にあたって」

- 1、これを用いるにあたっては、求道者には最初からこの「やさしい聖書の学び」の全部をお渡ししないように御願います。出来ればそのつどに第一課、第二課といったようにお渡し下さい。
- 2、学ぶ時間を短縮する場合でも一回の学ぶ量は二課までが限度です。そして求道者にはこのプリントを必ず個人的にファイルして繰り返し学ぶように指導下さい。
- 3、内容については信徒の方でも読み合わせるだけで十分学ぶことが出来ますが、内容によっては導く方のお証しも含めて少し説明を加えて下されば感謝です。
- 4、この中に出て来る聖書の箇所は出来るだけ聖書を開いて読むようにして下さい。聖書そのものに権威があるからです。
- 5、さらにこのテキストを用いるにあたっての詳細なマニュアルについては1999年2月5日発行の「伝道者(リーダー)用テキスト」の70ページ以降を参照下さい。

この「やさしい聖書の学び」の必要な方は、八幡福音教会までお申込下さい。

電話 0748-32-5650 定価一冊 100円これに送料が必要です。

はじめに

これから聖書の学びをしてゆきます。
最初から全て解らなくても心配いりません。
安心して学びを続けて下さい。

聖書の理解は次の二段階に分かれます。

第一段階 頭 …… 即ち、一般の知識として理解して下さい、信じられなくてもかまいません。学校で学ぶ知識と同じように、まず知識として理解して下さい。

第二段階 心 …… 次に心で理解する。即ち、「信ずる」という段階に進みます。
しかし、これは決して、あなたが自分の努力でするものではありません。また、聖書は努力したからといって、決して、信じられるものではありません。
あなたが救われた時、自然に信じられる様になるのです。即ち、救われた時与えられる聖霊が、あなたの内に働いて、信じさせて下さるのです。

ヨハネ16:13

『けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであらう。』

第一課 神

暗唱聖句

『神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。』ヨハネ3:16

1. 神は大きく2つに分けることができます。

1) 人間 [] つくった神

2) 人間 [] つくった神

この [] の中に助詞を一つ補ってみて下さい。全く別の意味になります。

2. 人間が作った神

…これを聖書では「偶像」と呼んでいます。

偶像は何によって作られているのでしょうか。身近なものから考えてみて下さい。

使徒17:29…金 銀 石

これ以外にも沢山あります。

①銅 ②鉄 ③木 ④紙

日本語の「神」という言葉の語源は、一説によると、「紙」から来ているという説もあります。

身の回りの偶像が、これらのどの材質によって作られているか考えてみて下さい。

①石で出来ている神様…お地蔵さん

②木で出来ている神様…木像

③鉄で出来ている神様…仏像

④銅で出来ている神様…仏像

⑤紙で出来ている神様…おふだ

これらの偶像が、本当に人間を救うことが出来るのでしょうか？

”御利益を授けるはずの神社で火事”

午後7:30ごろ、明治神宮お札売場から出火、約20㎡のおふだ売場を全焼、
原因は電気ストーブの消し忘れ、神社側では造営以来の珍事と大慌て。

(読売新聞より)

人間が冷静に、かつ、理性的に考えればこれらのものが人間を救うことができないことがすぐわかります。

3. 人間を造った神

これは、普通敬語を使い、漢字も「造」を用いて「人間を造られた神」と言います。天地宇宙を造り、人間を造り、その他全てのものを造り、かつ支配している神です。

そして、この神の最大の特徴は、怒りの神や、裁きを与える神ではなく、実に「愛の神」なのです。

イエス・キリスト様の語られたたとえ話の中に父親と息子の話があります。息子が父親からもらった財産を持って遠い所に行き、その財産を使い果たして食べるものにも窮しはじめました。彼は本心に立ちかえって父親のもとに帰って行くのです。やがてその息子を見た父親は、まだ遠く離れていたのに彼を見て走りより、その首をだいて接吻したばかりではなく、最上の着物を出して着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせ、さらに子牛をほふり祝宴を開いてこの息子を歓待したと言うのです。

この話ほど神の愛について語っているものはないと言われています。ここには相手を責める言葉もなければ、とがめだてる姿は全くありません。無条件に受け入れているのです。これこそが愛なる神の姿であると言われています。

人間は常に相手に条件をつけます。相手がこうなったら、ああなったら許してやると言うのです。しかし神は全く無条件に私たちに許して下さいなのです。

ある方は人間の愛は「なぜならばの愛である。」と語りました。私はあなたを愛している。なぜならば美人だから、お金があるから、と言った条件付きの愛なのである。それに対して神の愛は「にもかかわらずの愛である。」みにくいにもかかわらず、汚れているにもかかわらず、罪があるにもかかわらず、なお愛してやまないのが神の愛であり、無条件の愛だと言うのです。

私たちは長い人生の中にあって、この神の愛を知る時に、それまでの人生が全く造りかえられてしまいます。ここに神の力が働いて全人格までもが変えられて行くのです。このような愛でもって神は今もあなたを愛し続けておられるのです。

(「イエス・キリストの救いⅠ」神は愛です。より要約

一粒社発行)

このようにわたしたちは、神の愛を知った時、私達の生涯は変わらないはずがありません。今も神はあなたを愛しておられます。そして、あなたが神のもとに帰ってくるのを今か、今かと待っておられるのです。

終了	月	日	指導	次回	月	日
				予定		時より

第2課 人 間

暗唱聖句

『そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっているように、』
ヘブル9:27

1. 神の創造

人間は神が創造されました。創世記の初めには、神が天地、宇宙、動物、植物を創造されましたが、最後に人間をも創造されたことが記してあります。

創世記1:26

このところで「われわれに似るように」とありますが、これはどのような意味なのでしょう。神にも私たちと同じように、手や足、目や耳があるということなのでしょう。そうではありません。「神は霊なり」と聖書にありますが、人間も霊的な存在として造られたという意味です。つまり、魂を持つものとして造られたのです。犬には魂はありません。猫にもありません。人間だけが魂を持っているのです。その意味において人間は神に似せて造られたのです。

2. 人間の創造

これを更に具体的に記しているのが、次の聖句です。

創世記2:7

ここで人間は、2つの面から造られたと記してありますが、その2つの面とは何でしょうか。

- 1) 地のチリ・・・人を形造った
- 2) 命の息・・・魂を造られた

ここで「人は生きたものとなった。」と書いてありますが、これはどういう意味なのでしょう。

- 1) 肉体的に呼吸をするという意味でしょうか
- 2) それとも、霊的に魂を持ったものとしてなのでしょうか

3. 人間の特性

聖書は神が人間を創造されたとき、いのちの息を吹き込まれたと書いてあります。これが人間と他の動物との根本的な違いです。そして、このことが「神に似るように」の意味でもあります。

人間は他の動物の持っていないものを持っています。それは「魂」です。さらに、魂を持つ人間は他の動物が持っていない多くのものを持っています。

- 1) 理 性

- 2) 良 心
- 3) 心
- 4) 神を認識する力

つまり、神は人間をご自分に似せて霊的な存在、すなわち魂を持ったものとしてお造りになったのです。そして、神に造られた人間は赤ちゃんがお母さんを求めるように、神を求めるのです。

伝道の書3:11

『神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。』

「永遠」という言葉の代わりに「神」を入れて読み直して下さい。

犬や猫は決して神という存在を認識することは出来ません。そのように造られているからです。しかし、人間だけは、否定しても否定しても心の深くに神を求める心があるのです。

戦場で多くの若者が死の間際に言う言葉は、「お母さん！」たとえ、どんな親不幸をしてきた子供でも。同様に、人間本当に苦しいとき、また死に直面したとき、思わず口にでるのは「神様」。

4. 死＝魂と肉体の分離

伝道の書12:7

人間の創造は、地のチリから造られた肉体と、鼻の穴から吹き込まれた魂の合体によってなされました。

死は反対に、この二者の分離なのです。

- 1) 肉体は再びもとのチリに帰ります。

イ) 70キロの体重のあった人も、50年、100年、1000年とたった後は、一握りのチリ（土）に戻るのです。ロ) 人間の身体を構成している元素と、土の元素は同じです。肉体は元のチリに戻るのです。

- 2) では、魂（霊）はどうなるのでしょうか。

これを授けてくださった神のもとにかえるのです。

そして、聖書は神の裁きを受け、永遠の命か、永遠の滅びかに定められていると書いてあります。

神を信じて、是非「永遠の命」（ヨハネ3:16）をいただいて下さい。

終了	月	日	指導	次回 予定	月	日	時より

第3課 罪

暗唱聖句

『ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。』

イザヤ59:2

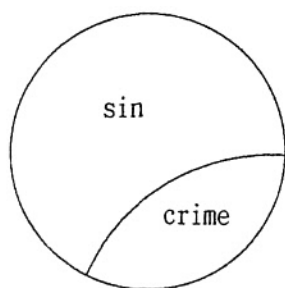
*59:1も読んで下さい。暗唱は前半2行のみでも可。

1. 罪とはどのようなものなのでしょうか。

教会に来てよく聞くのがこの罪ということです。一方教会に来られるくらいの人には、大体真面目な方が多く、最初抵抗を感じるものです。しかし、それは聖書が教える「罪」という言葉の意味を十分理解していないところから起こります。罪には英語で2つの言葉が用いられています。

- 1) crime・・・主に法律上、刑法上の罪（ものを盗む、人を殺す）
- 2) sin・・・宗教的、道徳的罪も含む広い意味での罪（嘘、偽り、偽善、悪意、他）

図で示すと次のようになります。



crimeは罪のうち、ほんの一部のみを意味します。そして、聖書で扱っている罪はすべてsinの罪です。

人を殺したことはなくても、心の中に激しい憎しみがあれば、聖書は既に心の中で人を殺していると教えています。人殺しは罪ですが、聖書は同様に心の中で殺してやりたいほど憎むなら、既に心のうちにおいて人殺しをしているのだと教えているのです。（Iヨハネ3:15）

親を手にかけて殺せば罪です。しかし、親不孝の息子がいて、心配のあまり親が病気になり死んでしまったら、これも同じく人殺しなのではないでしょうか。

2. このような光りに照らされてみるなら、だれも神の前に「私は罪がない」とい

うことは出来ません。

次の聖書の箇所を開いて下さい。

ヨハネ第一1:8

『もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。』

鉛筆のキャップ1本・・33年前の盗みゆるして

小学2年生だった昭和22年ごろ、学校からの帰り、停留所で市電を待っている間、そばの文房具店をのぞいた。そばにあった鉛筆のキャップがとても美しく見え、つい手が伸びてしまった。家に帰ってから心がとがめ捨てる。その後も罪の意識は消えず成人してからキリスト教に入信。神と牧師に罪の告白をし、悔改めたが具体的な償いをしたいと店を探したが分からず警察に謝罪の手紙と共に現金を送金してきた。

3. そして、この罪こそが

- 1) すべての不幸、苦しみの原因であり
- 2) 人間と神の間を隔てているものであり
- 3) 私たちを永遠の滅びへと定めているものなのです。

救われるためには、この罪を許していただかなければなりません。

終了	月	日	指導	次回	月	日
				予定		時より

第4課 十字架

暗唱聖句

『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛し下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。』

ヨハネ第一 4:10

十字架とは

キリスト教と十字架の関係は多くの人が知っています。そして、一般の人もなんとなく解っているようにも思えます。例えば

- *教会の屋根には十字架があります。
- *胸で十字を切る。(ただし、カトリック)
- *ヨーロッパなどでは墓地も十字架。
- *十字架のペンダント等

では、この十字架はどのような意味を持っているのでしょうか。

1. 十字架とは・・・刑罰の方法です。

- 1) 今日、死刑の方法はいくつかあるようです。例、絞首刑・電気椅子
- 2) ローマ帝国の死刑の方法・・・十字架刑。
ただし、これはもっとも苦しい方法なので、特に罪の重い人にのみ適用され、あまりにも残酷なので二世紀に入ると廃止されました。
- 3) 方法は、三本の釘で全身を支え、死ぬまで放置しておくものです。
- 4) 日本でも江戸時代まであったようです。例、キリシタン・佐倉惣五郎
- 5) イエス・キリストが、私たちの身代りに、この十字架で死んで下さった。

2. 十字架とは・・・犠牲（贖い）です。

- 1) 人間は罪を犯したので死に定められています。『罪の支払う報酬は死である。』
(ローマ6:23) 罪を犯した人間、すなわち、私たち一人一人が、その罪のもとに死に定められているのです。
- 2) しかし、キリストが私たちの代わりに死んで下さった。そのキリストが死なれたのが十字架なのです。
- 3) ユダヤ人たちは長い間、罪の身代わりとして動物を用いていました。
*子羊・犠牲の死・その血による罪の赦し
- 4) 新約になると、神の子であるイエス・キリストが、神の子羊として十字架におかか

り下さったのです。

3. 十字架とは・・・神の愛の結晶です。

『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛し下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。』ヨハネ第一 4:10

この神の愛を知るために、聖書の中から十字架への道筋を一つ一つ調べてみるのは意味のあることです。主にマタイを調べてみましょう。ここには「なだめの供えもの」となられたイエス様のことが記されています。

1) ムチ・・・マタイ 27:26

39回、背中に、皮膚は裂けて。

2) 上着・・・マタイ 27:28

兵士の着ていた上着、オーバーのようなもの、背中の傷に直接当たったと思われる。

3) いばらの冠・・・マタイ 27:29

頭にしっかりくいこませます。血があふれたでしょう。

葦・・・マタイ 27:29

あざけりのしるしです。王様としてからかった。

4) つばきをかけ・・・マタイ 27:30

5) 頭をたたき・・・マタイ 27:30

6) この後、悲しみの道をたどりゴルゴタの丘へ、約2キロメートル位の道、背中に重い十字架を負い (50～60キロ)、途中二度ほど倒れ、背中の傷に食い込まれた。

(ヨハネ19:17)

7) 十字架へ

三本のクギ、全身もえるような痛み、手、足、頭、背中、最後に脇腹から血を流して、死。

その十字架の上から祈られたみ言葉がルカ 23:34です。

聖書を開き「彼ら」というところに自分の名を入れて読んでみて下さい。

ヨハネ第一 4:10、ルカ 23:34の二つのみ言葉をしっかり味わってみて下さい。神様がどんなにかあなたを愛して下さっているかが解ります。

ある方の証詞

小さい少女（2～3才）、台所でお鍋のお湯を全身にあびて大やけどを負う。すぐ病院へ、生命の危険。最後の方法として母親の皮膚移植が、しかし、麻酔できず。6時間あまりの大手術、背中から尻にかけて60枚近い皮膚を移植し、子供は助かる。

母親には、大きな傷痕が残る。子供は成長し、その傷跡を見る度に母の愛を知り感謝した。「私のお母さんは私のためにこの傷を負ってくれたのだ！」同様に、否、それ以上の愛をもって天の父は私たちを愛して下さい。

救いの祈り

（心の中に、キリストを救い主として受け入れる祈り）

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」（ヨハネ黙示録3:20）

-
1. 愛する天のお父様
 2. 私の心の中には、たくさんの罪があります。
今、これらの罪をおわびいたします。おゆるし下さい。
 3. イエス様が十字架で流された血潮により、これらの私の罪を赦し、清めて下さい。
 4. 私は今、心の戸を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今日から私の主として、私の生涯を導いて下さい。
 5. このお祈りをイエス様のお名前によってお祈りいたします。

アーメン

（※真実なお祈りです・・・の意）

終了	月	日	指導	次回	月	日
				予定		時より

第5課 救いの祈り

《罪のおわびの祈り》

暗唱聖句

『御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。』

ヨハネ第一1:7

1、罪の許しのためには血が必要でした。

「血を流すこと無しに罪のゆるしはありえない」

- 1) したがって、旧約の時代には動物の血が流されました。主に羊が用いられましたが、人々は罪を告白し、羊を殺し、その血を献げることによって許されたのです。すなわち、羊の血によって罪の許しを得ました。
- 2) 新約の時代になると、イエス・キリストが神の子羊として十字架にかけられ死んで下さいました。そして、そこで流された血潮は、全ての人の罪を許すことができるのです。

暗唱聖句はそのことを意味しています。もう一度読み直して下さい。

2、罪が許されるためには、その罪がおわび（告白）されなければなりません。

暗唱聖句のすぐ後のヨハネ第一1:9をみてみましょう。

- 1) まず目につくのは「もし～ならば」ということです。すなわち、条件文です。
- 2) 次に、罪を言い表わすということです。

これは別の聖書では「公に言い表わすなら」（新共同訳）と訳されています。すなわち、心から神様におわびすることです。ちょうど、悪いことをしてしまった子供が、お母さんに「ごめんなさい」というように私たちは神様に罪のおわびをするのです。

- 3) その次に気がつくことは、「罪の許し」「きよめて下さる」ということです。罪が許されること、すなわち、罪許されきよめられることを聖書は、「救われる」ことだと教えています。

3、罪をほかさない

写真のネガがぼけていると出来あがる写真は必ずぼけてしまいます。同様にこの罪を告白するとき、罪をほかしていいかげんに扱うと、その後に来る救いがぼやけてしまいます。

それでは残念なので、心から、正直に、一つ一つ、お祈りしましょう。

- 1) 神様が教えて下さる罪の一つ一つ、具体的に整理してみましょう。
 - イ) いつ、どこで、だれに。
 - ロ) 示される全て。
- 2) この時、気をつけなくてはならないのは、恥ずかしがったりして、一番強く示されている罪をかくして二番目、三番目だけをお祈りするというようなケースです。後に来る救いと、救いの喜びが不完全となってしまうので注意しましょう。
- 3) 罪のおわびは、神に対してなされるものです。カトリックは神父さんに向かって「ごんげ」しますが、聖書はそうのように教えていません。個人が神に対してなすものです。したがって、信仰の指導をしている先生やクリスチャンは、あくまで、ヘルパー（助け人）であり、もしお祈りの内容によって聞かれるのが困る場合、そこだけ席を外してもらうことも出来ます。あるいは家に帰って一人でお祈りしてもよいのです。要は、あなたが、神の前に示されている罪の一つ一つ正直におわびすることです。
- 4) では一緒に示されている罪を書き出してみましょう。
 - イ) 具体的に
 - ロ)
 - ハ)
 - :)
 - ?) その他

4. 罪のおわびの祈り

- 1) 愛する天のお父様、
- 2) 私には次のような罪があることが解りました。
 - イ)
 - ロ)
 - ハ)
 - :)
 - ?) その他これらの私の罪をお赦し下さい。
- 3) イエス様が、こられ私の罪のために十字架でお死に下さり、私の罪を赦して下さいたことを感謝致します。
- 4) 『御子イエスの血は、すべての罪から私たちをきよめます。』このみことばを信じます。
- 5) このお祈りをイエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン

- *目に見えない神様に向かって心よりお祈りして下さい。
- *解らなくなったら、目を開けてみてもかまいません。
- *大切な時です。ゆっくり、一つ一つ、心からお祈りしましょう。
- *もし席を外してもらいたいときはその旨を話して下さい。

5. 祈り終えたら

このお祈りがなされたならあなたは救われました。おめでとうございます。

- 1) 何か、ホッとしたり、平安や喜びが与えられる場合もあります。
- 2) また、特別な感情はない場合もあります。

そのような実感があってもなくても、救われたことは確かなのです。最初の赤ちゃんが生れたとき、父親（母親）は、実感がわからないということをよく聞きます。しかし、実感がわいてもわかなくても、父親となったのは事実です。同様に、実感があってもなくても救われたのは事実です。

6. 最後に二つのことをして下さい。

- 1) 今日の日、時間をキチンと覚えておく。
年、月、日、時、分、場所、指導者など。
- 2) 家に帰ったら、もう一度お祈りして下さい。大切なことは、今度は「赦して下さい」ではなく「今日、私は罪をおわびし、イエス様を信じ救われました。このことを心より感謝します。」このようなお祈りです。

《たしかめてみましょう》

1. あなたは、救われることを願い、キリストを信じて祈りましたか。
☐ はい
2. もしそうならば、あなたにすばらしい恵みが与えられています。次の聖書の約束の箇所に線を引きましょう。
 - (1) もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。(第一ヨハネ 1:9)
 - (2) だれでも、わたし（キリスト）の声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまた私と食を共にするであろう。

(ヨハネ黙示録3:20)

(3) 彼を（キリスト）を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。(ヨハネ1:12)

(4) 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネ3:16)

3. さあ、キリストを信じ受け入れたあなたは、いま、どうなっていますか。
確認して下さい。

- ① ☐ 罪が赦されました。
- ② ☐ 神の子供になりました。
- ③ ☐ キリストが心の中におられます。
- ④ ☐ 永遠の命が与えられています。

終了	月	日	指導	次回	月	日
				予定		時より

第6課 救 い

《その1 救いとは》

暗唱聖句

『人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。』

ローマ10:10

前回、神様の前に罪のおわび（告白）のお祈りをしました。

- 1) イエス・キリストを救い主と信じ、
- 2) 自分の罪を告白し、
- 3) 私の罪のためにイエス様は血を流して下さった。このことをハッキリ知り、かつ、お祈りしたなら、あなたは救われたのです。今日の暗唱聖句と合わせて、このことを最初にもう一度確認して下さい。

*今日は、救われた気がしても、気がなくても、救われているのだということを学びましょう。

*赤ちゃん、父親（前回の最後に学んだ）1) 父親になった喜び、感動を感じる人もいます。2) 何か実感がわからない人もいます。しかし、共に、父親になったことは事実です。

*あなたは、

- 1) 罪のおわびをした後、喜び、感謝、平安が与えられましたか。
- 2) まだ、実感がわきませんか。しかし、いずれにしても救われたのは事実なのです。

1. 救いは、自分の感情によるのではない。

イエス様に罪をおわびしたとき、

- 1) 涙が出た人も、
- 2) そうでなかった人もいます。

お祈りが終わった後、

- 1) 何か、心に平安が与えられた人も、説明は出来ないが、喜びや、感謝の思いが与えられる人もいます。
- 2) また、そのような感情はなかった人もいます。

要は、涙や感情とは関係なく、キチンと罪の告白がなされたなら救われているのです。なぜなら、救いは、主観的なあなたの感情によるのではなく、客観的な神のこ

とば（聖書）によるのです。喜びという感情が救いの「しるし」であるとしたら、何かの拍子に喜びがなくなったとき、救いもぐらついてしまいます。確かに、喜びや感情も大切です。しかし、それ以上に大切なことは、聖書のみ言葉への静かな信頼です。

一つの例を考えてみましょう。1863・1・1これは何の日でしょう。アメリカで奴隷開放宣言が発表されました。翌々年1・31には、憲法も修正され、法律としても効力をもちました。つまり、この日をもって、アメリカ合衆国のすべての奴隷は自由になったのです。それを知って、

- 1) 感激に涙を流した人もいたでしょう。2) 信じない、否、信じられなかった人もいたでしょう。しかし、主観的な本人の感情、確信によらず、すべての奴隷は自由にされたのです。

救いも全く同様なのです。私たちの感情が問題なのでなく、救って下さるという聖書の約束が大切なのです。

2. 誕生日について

魂の誕生日（救い）を知るために、肉体の誕生日を考えてみましょう。

- 1) 生年月日をいって下さい。

（例）19〇〇年〇〇月〇〇日、〇〇県〇〇市で誕生

- 2) いつごろ知りましたか。

大体、小学校入学した頃

つまり

イ) 生まれた時と

… 救いの時

は別であった

ロ) 知った時と

… 確信する時

は別、このことを知ることが大切です。

人によっては救いと同時に確信がくる人もいますが、多くの場合、少し後から来ます。

1、2週間、1～3か月、中には半年、1年、2年後のことも。しかし、大切なことは、必ず確信は与えられるということです。

- 3) 誕生日 … どうして知ったか。

お母さん（父）に聞いた。

イ) 聞いたから

ロ) そして、信じたから

そして、今は確信を持って、私の誕生日は～と答えられる。

イ) 母を信じる・・・信頼

ロ) 神を信じる・・・信仰

私たちも神を信じる

4) その日が確かに誕生日だという証拠がありますか。

(これは聞いてみて下さい。少しとまどいますが、いろいろ証拠はあるのです。)

* 母子手帳

* 戸籍

* ヘソの緒 (生母に与えられる)

* 証言 (両親)

同様に、私たちが救われている証拠が必要。その証拠は何か。みことば・・・聖書
今まで暗唱した聖句一つ一つ、これが証拠なのです。

神に向かい、人々に向かい大胆に宣言して下さい。「聖書はこう教えている。故に私は救われているのだ！」これが信仰なのです。

* オリンピック優勝者、金メダルを胸に、そして、「まだ実感がわきません」

しかし、少しずつ実感は湧いてきます。そして、それは喜びです。

救いも、やがて必ず実感、すなわち感謝、喜び、平安などが与えられ「ああ、私は救われていたのだ」と確信できるときが来るのです。

終了	月	日	指導	次回 予定	月	日	時より
----	---	---	----	----------	---	---	-----

第7課 救 い

《その2 信仰の成長》

暗唱聖句

『しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制
であって、』ガラテヤ5:22

1、御霊の実

- 1) 先ず「実」という言葉に注意して下さい。愛、喜びなどは御霊の「実」であるという事です。
- 2) 「実」がなるためには、先ず種が播かれなくてはなりません。救いとは心のなかに聖霊の種がまかれると考えると理解しやすいかもしれません。
- 3) 種がまかれる時と実がなる時の間には時間が必要です。

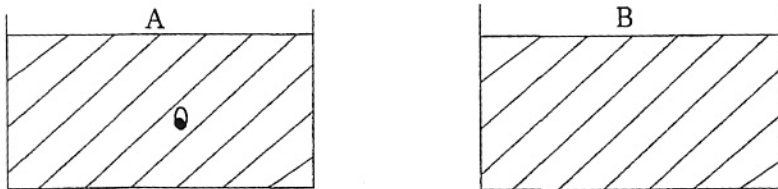
例 モモ、クリ・・・3年

柿・・・8年

朝顔・・・3～4ヵ月

同様に、救われたクリスチャンも立派な実を結ぶために時間が必要です。まかれた種をしっかりと育てなければなりません。

2、まかれたことを信じること



A の鉢には朝顔の種を播きました。Bには播きません。

- 1) まかれないBの鉢には決して芽も出ず、したがって花も咲かず実もなりません。「播かぬ種ははえぬ」のことわざ通りです。
- 2) まかれたAの鉢は必ず芽が出るのです。種の中にもともとそのような力があるので、努力したり、頑張ったりしなくても自然に芽が出るのです。そして花が咲き実がなります。
- 3) この時、大切なことは「信ずる」ことです。土の中で種がみえなくてもまいたのが事実なら信じてつづけるのです。必ず、しばらくすれば芽が出てきます。この時、いけないのは、がまんできず種をほじくりだしてしまうということです。

す。せっかくの種も枯れてしまいます。同様に、信仰において大切なのは「信じ続けること」です。疑ってはいけません。

3、成長の3要素

種はまきさえすれば、必ず立派な実になるかという決してそんなことはありません。立派な大きな実を結ぶためには、どうしても次の3つが必要です。このうちどれが欠けても、決して良い実とは結べません。

1) 水……聖書…パン

2) 太陽…礼拝(集会)…運動

3) 空気…祈り…呼吸

1) 水がなければすぐ枯れてしまいます。クリスチャンも聖書をしっかり読まなければ信仰は枯れてしまいます。魂の糧、パンのようなものです。

2) 太陽がなくても植物は育つことは育ちます。しかし、しっかりした実とは結べません。

(例) モヤシ 礼拝に出なくても信仰は出来そうですが、決してしっかりした信仰は持てません。人間にとって必要な運動のようなものです。

(例) たきび 一本だけではくすぶってしまう。

3) 空気がなくて実になるのでしょうか、決して、立派な実とは結べません。信仰生活にとっても祈ることは呼吸と同じ程大切なことなのです。

すなわち、植物が立派な実を結ぶために、これら3要素が大切なように、私たちの信仰が成長し、御霊の実を豊かに結ぶためには、この三つ、すなわち、聖書、礼拝、祈りは決して欠かせないのです。

4. 害虫を殺す(潔め)

ところで、実は、立派な実を結ぶために、どうしてもしなければならないことがもう一つあります。害虫を除くことです。よい木であればあるほど虫はつきます。消毒をして殺さねばなりません。

同様に、信仰生活にとって心しなければならないことは潔めです。ある人は「救われたら罪を犯さなくなる」と考えている人がいます。決して、そのようなことはありません。私たちは天国に行くまで罪を犯す可能性を持っています。しかし、イエス様は、それらの罪を犯す可能性(性質)をも十字架にかけて殺して下さいました。救いの時同様、イエス・キリスト様の十字架はこの私の自我(自己中心の性質、神の御心に服従しようとしないう性質)も十字架の上で殺して下さいましたことを信じて下さい。これをキリスト教で「潔め」と言っています。この「潔め」を戴くと、まず

ます神に従うことが喜びとなって来ます。是非、神に服従して立派な実を結ぶ者となって下さい。この「潔め」については参考図書として教団発行の「聖潔をめざして」、「聖化の恵み」(本田弘慈著)をお読み下さい。

『わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。』

ガラテヤ2:19-20

終了	月	日	指導	次回	月	日
				予定		時より

第8課 救 い

《その3 神の子》

暗唱聖句

『しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子
となる力を与えたのである。』ヨハネ1:12

ヨハネ1:10, 11も一緒に読んで、このみことばの意味をよく理解して下さい。今日は、救いということをいろいろな方面から学んでみます。

1. 救いの意味

キリスト教、又は、聖書が教える救いとは、

- 1) 貧しさからの救いでも、
- 2) 病気からの救いでも、
- 3) 悩みからの救いでも、

ありません。

それらは、結果として与えられることはあっても第一の目的ではありません。では、何からの救いなのでしょう。「罪からの救い」です。なぜなら、人間の不幸、悲惨、悩み、その全ての原因は罪にあるからです。主は十字架にかかり、私たちを全ての罪より解放してくださったと同時に、来たるべき、最後の裁きよりも解放して下さいましたのです。

2. 救う力は神にある。

仏教などでは、念仏にしろ、お経にしろ、人間の行為、努力（自力）が尊く、対象（他力）はどちらでも良いような感じさえします。”心だに、まことの道にかないなば、祈らずとも、神は聞くらん”この歌は、そんな日本人の心をうたった歌かもしれません。

しかし、キリスト教では、

- 1) 人間の信仰、祈りも尊いが、
- 2) それ以上に大切なのは神である・・・ということです。

例をとって説明しますと、信仰、あるいは、祈りは電球のようなものです。神につながったとき、電球は輝くのです。つまり、力は神にあるのであり、信仰はその力

を引き出す手段なのです。

どんな弱々しい信仰でも、キリストにしっかりつながっていれば、神様が力を与えて下さり、私たちの心に明るく灯はともるのです。

3. 代価が払われている。

ある人は、お祈りするだけで救われるのは、少し虫がよすぎないかと思うことがあります。しかし、あなたの救いの背後に、実はすでに大きな代価が払われているのです。それが、前回学んだ主の十字架です。もう一度、それらを一つ一つ思い出して下さい。この大きな代価によって、私たちは、ただ、祈り、イエス様の血の赦しを信じるだけで救われるのです。

例

*ある人、大きな借金、返済できない。裁判、刑務所に。苦しい毎日。ある日突然、釈放、びっくりする。しかし後で知る。一人の友人、銀行の口座に大金を振り込む、支払い完了故に釈放。

*ある国、王様、青年たちの罪に心を痛める。どうにかしなければ・・・一つの法律、「以後、罪を犯したものの、片目をえぐり取る」最初の違反者、連れてこられる。その青年を見て、びっくり。自分の子供、王子。王様は決心し、家来のヤリを取り、自分の目に刺しえぐり取る。そして叫んだ。「刑罰は終わった！このものを釈放せよ！」

イエス様が十字架で大きな犠牲を払って下さったがゆえに、今、私たちは信じ罪をおわびするだけで救われるのです。そして、その意味をハッキリ知ったときに、私たちの心に大きな喜びがわいてくるのです。

今日は、ご一緒に神様に感謝をしましょう。

- 1) 私達を救って下さったこと。
- 2) そのために、大きな犠牲が払われていること。
- 3) その結果、救われ、神の子とされていること。

終了	月	日	指導	次回 予定	月	日	時より
----	---	---	----	----------	---	---	-----